

総務産業委員会視察報告書

視察日程：令和4年11月15日、16日

視察地：宮城県 仙台市、石巻市

総務産業委員会

出席委員

委員長	大庭 聖一	副委員長	高橋 圭子
	中藤 大助		新田 輝彦
	峰浦 修平		中庄谷 栄孝
	高道 一郎		岡田 昌司

令和4年11月15日

視察先

宮城県 仙台市

視察内容

「アニメと観光の連携に関する取り組みや連携の経緯について」

宮城県仙台市は宮城県の県庁所在地で人口は1,067,981人、面積786.35km²で北陸地方の中心都市として発展しています。

仙台市では、交流人口ビジネス活性化戦略を令和元年に策定しています。仙台に宿泊してもらいながら宮城県内・東北各地への交流人口を増やすために、観光だけではなく交流人口に関わる幅広い業種を「交流人口ビジネス」と位置付けして成長と活性を図っています。本年3月に交流人口ビジネス活性化戦略2024を策定しており、その事業の中に漫画やアニメコンテンツに関する取り組みがあります。

仙台出身の荒木飛呂彦氏の作品である「ジョジョの奇妙な冒険」は仙台をモチーフにした《杜王町》が舞台となっている事などから、平成24年に【荒木飛呂彦原画展「ジョジョ展 in S市杜王町」】が開催され、仙台市も実行委員会に参加し、約31,500人が来場・経済波及効果11億円、次に平成29年に【荒木飛呂彦原画展「ジョジョ展 in S市杜王町」2017】を開催し約54,000人が来場・経済波及効果22億円と大きな成果がありました。

東北の中心地のため、多くの漫画家が作品（代表作ハイキュー・呪術廻戦など）の舞台に仙台市をモチーフにしていることから多くのファンが聖地巡礼に訪れております。

また、震災復興支援のために創られた作品（Wake Up Girls・バクテン）もあり、戦略的に地域と関連したキャラクター設定など、地元密着型の試みもしています。

漫画・アニメーションは、作品にもよりますが、うまく活用することにより多くのファンやマニアを誘客出来るコンテンツであり、地元住民などとも協力出来れば更にご多くの方を魅了出来る可能性を感じております。関西国際空港利用者を一人でも多く、本市に誘客するために生かせるコンテンツであると共に、いろいろな可能性がありますので本市に生かせる方法を検討できればと思います。

令和4年11月16日

視察先

宮城県 石巻市

視察内容

「アニメ・漫画の資源を活用した観光振興について」

宮城県石巻市は仙台市に次ぐ県内第二の港町で人口は137,305人、面積554.58km²で石巻都市圏の中心都市として発展しています。

石巻市では、1995年に当時の市長と漫画家の石ノ森章太郎氏との懇談が行われ、マンガを活用した街づくりの検討がきっかけとなり、平成8年に石巻マンガランド基本構想が創られ、その中の構想を形として出来上がったのが現在の石ノ森萬画館につながっています。また、モニュメントとして「サイボーグ009」が完成し、石巻市中心街地域活性化基本計画が策定され市民の声なども聞きながら、イベントなどを通して発展し「マンガを活用したまちづくり事業推進協議会」が発足し多くの市民や事業者が参加して検討して、マンガロード整備事業が進められて平成13年にマンガロードが完成、平成21年に追加整備され管理会社として「(株)街づくりまんぼう」が石ノ森萬画館の運営並びにマンガロードの維持管理を運営しています。

東北大震災の影響を受けて石ノ森萬画館は大きな被害を受けましたが、多くの方の支援を受けて平成24年11月にリ・オープン、平成25年3月にリニューアル・オープンし、平成25年度には24万人が入館しています。それ以降は年間17万人～21万人が入館していましたが、コロナの影響を大きく受け、令和2年は、約6万5千人・令和3年は約8万5千人と課題も出ているそうです。

石ノ森萬画館やマンガロードを通じて多くの繋がりが存在するので、今後もいろいろなイベントなどを通じて活性化に努めていくそうです。

本市でも、マンガやアニメーションを活かした空間整備を進めて多くの方が観光出来る、環境を推進していければと考えます。